

二〇二六年は、どんな年になるのか、「世界と日本の社会状況」について、また、「日本の福祉状況」について、A-Iに質問したところ、丁寧で詳しい回答がありました。その内容は省略しますが、どの説明にも共通していたのは、A-Iが「道具」から「パートナー」へ進化するという予想でした。単なる「検索」や「集計」の作業レベルから脱皮し、今後は、自律的に判断し、目的達成のため必要なツールを使つてタスクを完了させる「A-Iエージェント」が、益々活躍するようになるということです。

私はふと、人間の悩みに対してA-Iはどのような助言をするのだろうと思い、未解決だった事柄について、A-Iとの会話を試みてみま

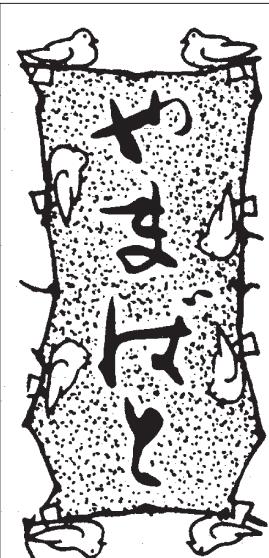
ます。

新しい年に入りましたが、本年もどうかよろしくお願ひ申し上げます。

A-I(Gemini)との会話 （ジヤン・バニエ氏の件で）

【M】（Mは私、AはA-Iの発言。）

的障碍者とともに暮らす「ラルシユ共同体」を創設した方がいます。この方の実践と、靈的なメッセージは、多くの人々に感動を与え、人生の神秘や真理について考えさせ、私も、大いに啓発された一人です。一年前でしたか、彼がセクハラをしたというニュースがラルシユ国際本部から発表され、衝撃を受けました。私だけでなく、誰もがそう思ったことでしょう。その発表が、彼の死後だった



発行
社会福祉法人牧ノ原やまばと学園
〒421-0412 静岡県牧之原市
坂部2151番地2
TEL:0548-29-0221 FAX:0548-29-0157
E-mail:honbu@yamabatogakuen.jp
http://www.yamabatogakuen.jp/

機関誌代は無料です。



こと、ご本人の弁明の機会もないまま、ラルシユ本部が発表したことに不信感というか、いやな思いを抱かされました。真相は分からせんが、私としては、彼のメッセージだけを伝えるべきか、私の思いもあり、その際には、彼のメッセージだけを伝えるべきか、私の思い（彼はセクハラなどとは縁遠い人だ）と思われ戸惑つている）も付記すべきか、迷っています。フランスでの出来事なので真相は不明ですが、創設者を守る道はなかつたのかと悲しい思いになります。彼のメッセージを引用する時の姿勢について、アドバイスをお願いします。

【A】（AはA-Iエージェントとラルシユの歩みに深く共鳴し、その精神を大切にされてきたあなたにとって、あのニュースは筆舌に尽くし難い痛みであつたと推察します。尊敬していただけのイメージが、死後に根底から揺さぶられるることは、一種の喪失体験にも似た苦しみです。あなたが抱いている「不信感」や「真相を知りたい」という葛藤は、非常に誠実な反応だと思います。この問題について、幾つかの視点をお伝えします。

一発表の背景。まず本部が、彼の死後、あのような発表を行つた

背景には、組織としての「誠実さ」と「サバイバー（被害者）への配慮」がありました。

ラルシユは、外部の独立機関に依頼し、数年かけて膨大な証言と資料を精査しました。その結果、バニエ氏が複数の（知的障害のない）成人女性に対しても、指導を隠れ蓑にした性的虐待を行つていたという「否定し難い証拠」が見つかたと報告しています。かつての宗教界では、指導者の過ちを組織のために隠蔽することがありましたが、現在の国際的倫理基準では「隠蔽は二重の加害である」と考えます。組織を守るためにではなく、「眞実を明らかにする」とが、ラルシユが守ってきた弱者への誠実さである」という苦渋の決断だつたようです。

二バニエ氏の言葉を紹介する際、どの道を選ぶべきか、三つのアプローチを提案します。

①メッセージと事実を「分けて」伝える。「バニエ氏の言葉は素晴らしいが、自身の晩年に深刻な問題が発覚した」という事実を、客観的な事実として注釈に添える方法です。メリット..誠実な態度として信頼されます。デメリット..言葉の純粹さが損なわれる感じになり、辛い作業になります。

② 葛藤している「自分の心境」を率直に書く。「彼の言葉に救われた。しかし後に報じられた疑惑に戸惑っている。それでもこの言葉の価値は消えない信じたい」という、あなたの揺れる心そのものを付記する方法です。メリット・同じようなショックを受けた読者の心に寄り添うことができます。あなたの人間性が伝わります。

③ 人物のことは何も書かず、言葉だけを伝え、その力に委ねる方法リスク・読者が後になつて事実を知った時、「なぜ隠蔽?」と不信感を抱くかもしれません。

三 バニエ氏の言葉があなたを救つたという事実は、彼の過ちによって消えるものではありません「光は、不完全な器（人間）を通しても届けられる」

バニエ氏が聖人君子ではなかつたことは悲しい事実ですが、彼が説いた「弱さの受容」というメッセージは、岡らすも「彼自身の深い闇（弱さ）」さえも包摶しなければならない、より重く、深い真理へと変化したとも言えます。もし私があなたの立場なら、「その言葉に救われた自分の体験」を主軸にしつつ、次のように、実際に触れるかもしれません。

近年、非常に厳しい事実が報告されています。私自身、その報に接し、今も深い戸惑いの中にあります。しかし彼を通じて語られたこの言葉は、今なお私の暗闇を照らす光であり続けています。言葉そのものが持つ真理を信じ、ここで共有したいと思います。」

なたにとつての「啓発」の本質だつたのだと理解いたしました。

最後に一点だけ補足させてください。あなたが感じられた「人生の神秘」や「希望」は、たとえバニエ氏という人物に影があつたとしても、あなた自身がその言葉を受け取つた瞬間に感じた「本物の真実」です。今後、彼のメッセージを紹介される時は、例えばこう伝えることができます。

「この言葉は、かつて私に人生の神秘を教えてくれました。今、この言葉の背後にあつた事実に直面し、光と影の深さに呆然とします。しかし、かつてこの言葉が私の視野を広げてくれたという事実は、今も私の中に大切な真実として残っています。」

このように、「言葉が自分に与えた影響」と「発信者の実像」をあなたの心の中で切り離し、あるいはその「矛盾」を抱えたまま提示することは、情報を受け取る側にとっても、非常に深い示唆を与えるものになるはずです。あなたの誠実な探求が、これからも誰かの視野を広げるきっかけになることを願っています。

（～～～～～～～～～～）

実は、私にはもう一つA.I.に質問したいことがありました。「セク

ハラというと、嫌がる相手を無理やり支配下におく」ニュアンスが強いと思いますが、男女を問わず多くの人から慕われていたバニエさんの場合、この言葉が該当するのだろうかと。しかし、傷ついている女性達のことを思い、余分の質問はしないことにしたのでした。

今回の試みを通して、A-Iは内面的な質問にも、豊富な語彙と奥深い表現をもってきめ細かく対応してくれることが分かりました。「道具としてではなく、パートナーとしてのA-I」は、今後ますます存在感を増すに違いありません。

今後、福祉分野に、(外見は人の姿で中身はA-I機能を搭載した)介護ロボットが登場したら、人間のスタッフたちはどうなるでしょうか?——先のことは分かりませんが、私たちは、助けが必要としている人々の良きパートナーとなるよう、人間としての心を養い、専門性を身に着け、お互いに切磋琢磨し、ともに成長していきたいものです。



小さな出会いから

安河内アキラ

わたしたちの人生は、小さな出会いの積み重ねでないでしょうか。いろいろな出会いから、わたしは気づかされて新たな道が開かれて行くことがありました。

少し自分の話をさせてください。

わたしは牧師として四十年間働きました。最初の二十五年は教会の牧師として働きました。その中で十七年間は北海道で働くことができました。

関東地方で育ち、両親は福岡と山口県出身だったので親戚はほとんど西日本にいます。そのようなわたしにとって北海道はあこがれの地でもあります。神さまは、そのようなわたしのあこがれを叶えてくださったのです。

五十歳になつた時に、わたしが属している教会の人事異動で高齢者福祉施設へ異動することになりました。それはまったく考えてもいませんでした。しかし、望んでもいなかつたことでした。この年齢になつて新しい仕事を始めるのは苦痛で、辞めようかと真剣に考えました。わたしを受け入れてくれた施設の施設長が「辞めるのは簡単だから、まずやってみてそ

れから結論を出しても遅くはないのでは」と諭してくださいり、社会福祉の世界に入ることになりました。けれども何も知らない世界、体も思つたようには動かない年齢になり、休み時間にはこれからやつていけるだろうかと一人涙を流したことありました。

わたしは、毎週の礼拝や毎日の朝の集いを通して、老人ホームのご利用者に、神さまの愛について語らせていただきました。ほとんどのご利用者が、入所して初めてキリスト教に接する方ばかりです。彼らにどのように語つたら、わかりやすく神さまのことをお伝えできるだろうかと日夜考えたことです。最近は、「神さまの役割とわたしたちが果たすべき別なんです」と語っています。

「涙と共に種を蒔く人は、喜びの歌と共に刈り入れる。」(詩編126編5節)という聖句があります。何が理由かはわかりませんがこの農夫は、苦しみの最中にありました。しかし、種を蒔く時期が来たのに、悲しみにうちひしがれて仕事を放棄してし

まつたら収穫できるでしょうか。収穫を信じて種を蒔くのは、わたしたち人間の役割なのです。その種に太陽の光を照らし、雨を降らせて実らせてくれるるのは神さまの働きです。神さまは道を示されますか、最期までは教えてはくださいません。

わたしは社会福祉の働きに十五年携わり、最終的には特養の施設長として働きましたが、わたしが社会福祉の働きを開始した時には、神さまは将来については教えてくださいませんでした。しかし信じて前進する時に、いろいろな出会いを通して成長させてくださいました。またその途中で、日本の介護人材不足解消のためにインドネシア人の青年たちを、わたしたちの施設に家族として迎えました。それがきっかけとなり現在の働きにつながって行

ることになりました。それがきっかけとなり現在の働きにつながって行くのですから不思議なものですね。

やまばと学園の長沢理事長との出会いも、そのような中からでした。たしかキリスト教社会事業同盟の研修会の席上で、昼食の時にたまたま同じテーブルに座り、その時に外国人雇用について考えていらつしやると話を聞いたのがご縁の始まりでした。当時、わたしたちの施設では外国人雇用を開始して数年が経過しており、それなりのノウハウがありま

した。初めて会つたわたしのこと長沢理事長は信じてくださいり、外国人雇用に関してわたしたちの施設での経験などをお伝えして、お手伝いさせていただくようになりました。

人生において、わたしたちは多くのことを選択しています。それはわたしの役割であり神さまが代わりにはしてくださいません。けれども、わたしたちに様々な出会いを与えて、よりよい選択をするために導いてくださいました。しかし信じて前進するときに、いろいろな出会いを通して成長させてくださいました。またその途中で、日本の介護人材不足解消のためにインドネシア人の青年たちを、わたしたちの施設に家族として迎えました。それがきっかけとなり現在の働きにつながって行くのですから不思議なものですね。

神さまは小さな出会いを通してわたしを導いてくださいます。それを信じることができたら、小さな出会いに感謝することができるのではないか

社会福祉の働きは、助けが必要な人を支援する働きです。神さまは「わたしの代わりにわたしの手になつて働いてくれないか」と、あなたを導いてくださつたのです。そしてこれからも誰かが笑顔になるために、神様はあなたを導いてくださいますから、信頼して前進していきましょう。

一〇歳の思い

聖ルカホーム 杉山 なな

私は幼い頃からお年寄りの方と話をするのが好きで、小学生の頃には福祉、介護の仕事に憧れを抱いていました。高校卒業し、聖ルカホームに配属されました。入居者様と過ごす時間は、自分自身を成長させてもうかる学びも多く、なにより心の癒しです。お手伝いさせていただく中で、耳が遠い方に出会いました。耳元でゆっくり話しかけたつもりが伝わらず、その際「ごめんな。あんた、優しい喋り方をしてくれるから聞く」えないので。」そう言われました。私は、この言葉選びからその方の人柄に感銘し、私自身も優しく温かい言葉を紡ぐことができることになりました。強く思いました。就職して半年程度夜勤が始まりました。最初の頃は、怖さと不安しかなく、嫌な勤務だと決めつけていました。しかし、数を重ねていく中で、夜勤にしかない良さに気づくことが出来ました。それは、新しい朝の始まりに「おはよう



よう働きかけています。(介護員)

インターンシップは人材育成の宝なり

デイサービスセンターすずらん 米山千穂

インター・ンシップは、牧之原市では、「おかえりプロジェクト交流事業」として高校生等を対象として行われており、職場体験を通して社会人としてのマナーを学んだり、自分の働き方をイメージできる機会です。

10月2日と3日の2日間、榛原高校定時制3年生の生徒さんを受け入れる事となりました。

初日のオリエンテーションでは、説明する私の目をしっかりと見て真剣に聞きしっかりと答えてくれて、何かを吸収しようという意欲が伝わってきました。受け入れ側として私は今日も感謝の気持ちを忘れず、入居者様の幸せや喜び、そして笑顔の花が施設いっぱいに咲き誇ります

と思います。今まで与えられた優しさと温かな愛情を、今度は私自身が皆に恩返していきたいです。そんな私は今日も感謝の気持ちを忘れず、もう子たちにはやりがいを感じてもらえるように対応していくかと思いました。

実習初日は緊張しているようで、なかなか声を掛けることや行動を起こす事が難しいようだったので、職員から交流できるよう配慮しましたが、2日目は、自分から利用者や職員に声をかけてくれたり、職員の動きをみながら自分でもできる」と探している様子がみられ、入浴後の髪の毛を整える事等をお願いしました。

（施設長）

れる」ことが初めてだったのに、距離感が難しかったと記載されています。後日の発表会では、他企業の方々も参加しており、2年生も見学していました。どの生徒さんも実習先での学んだことや「気付いたことをしっかりと発表していました。すくらんに来た生徒さんも「感謝の気持ちを忘れないようにしたい」と発表していて、私が伝えたかった事が伝わっていてうれしかったです。

職員も「利用者様に対する接し方や初心の頃を思い出す等、振り返りをしている場面もみられ、生徒さんの素直で一生懸命な姿勢は、良い刺激を与えました。今後も実習生の受け入れを継続し、将来を託せる人材づくりをしていきたいと思います。



※すくらんの他、デイサービスセンターすずらん、聖ルカホーム、グレイスでも実習生を受け入れました。写真は真菜の様子。

重い障碍を持つ人々の 在宅生活を支える

生活支援センター 田 村 貴 子

一〇一五年十一月、今年度も当法人が県から委託を受け、重症心身障害児者対応多職種連携研修を開催しました。参加者は、本人や保護者、行政、医療、教育、福祉関係者たちです。

今回は、台風竜巻被害を取り上げ、自宅で人工呼吸器を利用して暮らしている△さんと、二四時間彼を支えるヘルパーさんへのインタビュー動画を発表しました。彼は入院や避難をせず、自宅で医療ケアを続けることを選んだ方です。今回の発表を通して、災害時であっても、自宅療養を願う理由もわかりましたし、本人の願いを尊重してその暮らしを支えるためには、どんな支援や地域連携が必要か、考える機会になりました。この研修は、自助共助の重要性を気づかせ、地域力アップにつながっていくと実感しています。

研修後のアンケートでは、「また研修に参加したい」「実態を知る」

とができた良かつた」という感想が多く、企画運営に携わった者としてはホッとしました。今後も重症心身障害児の方たちが地域で暮らす状況について情報共有し、この人達が安心して暮らすため必要な支援や連携について学んでいきたいと思っています。



なお、インタビュー動画で、「日本の人気持を聞きだした村田千恵さん（生活支援センターの仲間）は、「重要なのは、身近なヘルパーさんの存在です。本人の思いを大事にして支援している姿は輝いてみえたし、そんな支援者と一緒にチームを組めて、本当にうれしい」と語っていました。（主任／相談支援専門員）

内部監査「請求業務」を実施して

未来検討会 経営グループ 山 本 瑞

介護や障がい福祉の現場を支えているのは、日々のケアだけではありません。運営の土台となる「事務」が健全であつてこそ、利用者様へ安定したサービスを届けることができます。私たち「未来検討会 経営グループ」は一〇一四年一〇一五年に、法人内全事業所を対象とした「請求業務」の内部監査を実施しました。

監査の目的は、単なる誤りの指摘ではなく、組織の健康状態を確かめる“健康診断”です。複雑な制度の中で、加算の算定要件や請求処理が正しく理解され、適切に行われているかを、現場の書類一つひとつから丁寧に確認しました。

その結果、多くの事業所で細やかな管理が行われていることを再確認できました。一方で、パソコン画面での目視確認への依存、請求明細書の一部の確認不足、加算の未取得といった課題も見つかりました。これらに対しては、より正確かつ効率的に業務を行うための具体的な改善策



（高齢者事業部事務長）

歩みのあと

(11月1日～12月31日)

- 全般的なこと

▼11／5全体防災訓練。11／5
7飯塚監事による会計定期監査。
2日間8拠点。11／10～11／21松浦
監事による業務定期監査。4日
間15事業所。11／18防災委員会
11／21事故防止委員会。11／28
中堅職員研修。講師は静岡朝日
テレビの石田和外氏。11／30榛原
教会にて施設長歓迎礼拝。11／
25（）12／5第2次補正等ヒアリン
グ。12／8看護師会12／16相談
員交流会。12／19事務統一検討会。
●個別のケース

〔法人〕11／21と12／23島田社会保
険事務所調査。11／27長澤理事
長、聖隸学校評議員会出席。12
／13第5回理事会。定期監事監
査報告。第2次補正予算の審議等。
〔垂穂寮〕11／2大津ふれあい祭り
に出店。利用者3名参加。11／
15保護者の奉仕作業と総会。
〔野ばら〕11／2大津ふれあい祭
り。絵画展示や作品の販売。11
／22松風閣で26周年の記念食事
会。勤続15年以上の職員を保護
者会より表彰して頂く。12／2小
グループ外出。12／16クリスマス会。
食事とゲームを楽しむ。
〔みぎわ〕11／2大津ふれあい祭りへ。
買物や音楽演奏を楽しむ。11／23
昼食に防災食。利用者も一緒に
準備。12／28お楽しみ昼食会。お
弁当を購入。

『やまばと希望寮』11／1地域のお
祭りで屋台の訪問。地踊りなど。
11／17ご利用者4名ご家族と
ともに川花鳥園へ。12／14クリ
スマス会。ランチや人形劇。歌で盛
り上がる。12／16インドネシアEP
A生2名（女性）着任。3年後の介
護福祉士合格を目指す。

『生活支援センター』11/30 在宅重
症心身障害児者対応多職種連
携研修を開催島田市役所を会
場に志太榛原園域の当事者や医
療教育・福祉関係者等約60名が参
加。
『わかば』11/2吉田港海岸清掃。11/
22本害想定避難訓練。11/
もくれん11/2吉田港海岸清掃。
『花もも』11/23震災想定避難訓練。
『花もも』11/19遊びクラブ。ボール
を使いため当駅ケーブル等。12/
12クライマックス会。近隣施設の職員とご
利用者&保護者を迎え、ウエルビ
の美味しい食事に舌つづみ。
『かたりの花』11/28感謝の会、友
達にありがとうございましたの思いを花束に
して伝えた。12/5保護者による
大掃除。12/19クリスマス会。音楽
活動年間の総まとめを発表。保護
者から拍手喝采。12/27忘年会に
カレー作り。美味しくて満足。
『マーガレット』11/14秋のバス旅行。
11/21クリスマスの飾り作り。12/
10松坂屋スマートアクリウムへ
ス会。12/12あまりーな大掃除。
ス会。12/17年賀状作り。12/26
あつまりーな大掃除。
『力サブランカ』11/5防災訓練。
『力サブランカ』11/5中
昼食で非常食を食べる。11/5中
健康づくり課歯科衛生士による
歯磨き講座。11/10インフルエン
ザ予防接種。12/12クリン大作戦で近隣地域ゴ
ミ拾い。12/24昼食はクリスマスの食
事。休憩時間に生誕劇の動画鑑
賞。12/30仕事納め大掃除。
『コスモス』12/13島田高校とのクリ
スマス交流会予定も、学校内の感
染で残念ながら中止。後日、やま
ばとサブレを贈り届け。12/25計6
名のご利用者がそれぞれカラオ
ケやボーリングを楽しむ。
『なのはな』11/5防災訓練。お昼
は防災食。11/241人でできる簡単
単品食作り。カツ煮中華炒めマーラ
ボーリーの中から選んで立候補。12/
11民主委員交流会12月の昼
休みにリース作りをし持ち帰った。
『希望の家』11/5保護者のご協力
で引渡訓練。11/14モルック大会。

チーム決めのドラフト会議から盛り上がりを見せた。12／11にこじままだクリーン大作戦。12／23保護者を招いてクリスマス会。《ふれあい》11／5 防災訓練、ご利用者からも意見を聞き、防災対策の参考に。12／5にこじままだクリーン大作戦。野守の池を周り上げてください。12／18保護者を招いてクリスマス会。11／11体操教室。11／28ボウリング大会。バドミントン大会へ投げ方を工夫し、一投で9笑い、ヨガ。サンタ衣装の塚本インストラクターが盛り上げてくださる。12／19年賀状作り。今年の反省、来年の抱負等書く。12／29仕事納め。昼食にカツ丼をばとおにぎりを提供。WCOやまばこ】11／26は榛原町舎、11／29は吉田特別支援学校で4名のご利用者が菓子パン等を販売。11／14坂部小学校支援学級生徒の買物訓練受け入れ。12／19クリスマス会。12／22大関農園にてみかん狩り。11／19牧之原市「ゆうゆうラブ」ハイキング。12／12あつまりーな全体のクリスマス会、保護者の参加多数。12／26あつまりーな大掃除。

《聖ルカホーム》11／2地域のお祭りで子供のわ離子などを楽しむ。11／7そば打ち美演後でさしたてを頂く。11／20次期給食委託業者の選定。

《レタスクラブ》11／5花の植え付けと落花生収穫。12／12あつまりーな全体のクリスマス会。12／23大掃除。

《聖ルカホーム》11／2地域のお祭りで子供のわ離子などを楽しむ。11／7そば打ち美演後でさしたてを頂く。11／20次期給食委託業者の選定。

11／29「おいらがエフ」家族も楽しめるイベントを堪能。12／4牧之原市委託「家族介護継続支援事業」実施。12／4厨房保健所立入検査

《グレイス》11／2地元祭礼の山車を楽しむ。11／11つばきU(ユーット)豚汁、ハーティ。11／14あさごおじら焼作り。りんどうJUSイトボテト作り。11／28恵の丘塗装コンテスト。全員を表彰。4保健所立入検査。12／9ハーフマスケーキ作り。12／17ビンゴ後にマグロ丼を食す。12／19防災

訓練、その後散髪。12／25メイホ
ルで餅つき。
《相寿園》11／4、12／9大場さんによるレクレーション。11／11と18御前崎市あさわやふるどと公園通りマルンエ御前市で畠食。利用者からは高評価。11／12と12／17笑いヨガ。11／21、12／26習字クラブ。12／2、7誕生日に御前崎市方面でえ買ひ物し牧之原サービスエリアで外食。12／18クリスマス会。カラオケと昼食のクリスマスメニューでお祝い。
《真菜》11／6～7真菜で収穫したお芋でスイートポテト作り。11／19、25ハーモニカ演奏に合わせて歌う会。11／17シチューやナゲット、小松菜の胡麻和え作り。活躍のこり'utilisationを贈る。11／18花見会。マス会。12／27聖ルカのお餅つき。
ラオケ大会。12／11すずらん合同会の感染症研修。12／12花ももクリスマス会交流。12／23／25クリスマス会。12／29忘年会と大掃除。お汁粉と真菜で作った干し柿を食す。
《すずらん》11／22祝10歳の誕生会職員手作りケーキを食べ、折紙のリースを贈る。11／28塗り絵コンテスト表彰式。ご利用者に表彰状を授与し、記念撮影。帰宅後も喜ばれる。12／19クリスマス会。サンタクロースとトナカイからのリースのプレゼント。世界に「だけの自分だけのケーリー」を作る。12／25餅つき。里山の会の様達の「よいしょ」掛け声に歓声。お汁粉も絶品。
《さぶらん》11／20感染症対策研修会。12／11主任ケアマネ連絡会地域課題検討会。11／13事例検討会。11／20お茶の香みらいくじ研究会。12／12同上。褥瘡会。12／11主任ケアマネ連絡会。地域課題検討会。12／16相談員交流会。12／22主任ケアマネ研修。静岡福祉大学樋木教授「システム理諭」。
《オリーブ》11／18牧之原市介護保険事業計画等策定懇話会。医師会、老人クラブ連合会、社会福祉協議会等々の代表16名。長澤理事長は牧之原市社会福祉法人代表として出席。オリーブも包括支援センター部会の委員として出席。11／25牧之原市長寿介護課

寄付金状況報告			(単位:円)
	寄付金	指定寄附金	合計
4月～ 11月	42,349,642	0	42,349,642
12月	3,151,058	0	3,151,058
計	45,500,700	0	45,500,700

*2025年5月大口寄附(個人)あり 18,555,081円
 *2025年8月大口寄附(個人)あり 20,000,000円
 2025年12月31日現在